玉里の史跡

六井六畑八館八艘

探訪マップ

玉里には「六井六畑八館八艘（ろくいろくはたはったてはっそう）」という言葉が残っています。湧き水が多く、水が豊かで（六井）、地味（ちみ）が肥えて生産力が高く（六畑）、したがって中世には勢力拠点であった城館（八館）、古墳時代には、地方の首長墓である大規模な前方後円墳が多数築かれました（八艘）。このような玉里地域の歴史を端的にあらわしているのが、このことばです。

こうした代表的な史跡を巡り、ふるさとの再発見につながれば幸いです。

小美玉市教育委員会・玉里史料館
玉里の史跡と自然を護る会

六井

玉井（たまい・たまのい） 上玉里

大宮神社の北側に所在し、昭和20年頃までは湧水がありました。

『常陸国風土記』に、倭武天皇（ヤマトタケルノスメラミコト）が「桑原の岳」に停まれたとき水部（もひとりべ）に井戸を掘らせたところ、清らかな水がこんこんと湧き出しました。それをみて「よくたまれる水かな」とほめたたえ、それがもとになって、田餘（たまり）と呼ぶようになったと伝えられています。

亀井（かめい） 高崎

富士峰台地の裾にあります。下方に弁才天と呼ばれる広い水田が広がり、その灌漑用水や付近の生活用水として利用されてきました。亀井には、たくさんの石仏や石碑が残り、当時の姿を偲ばせます。

涌井（わくい） 上玉里

玉里総合支所の東南約150mの谷頭にあります。平成11年、玉里の史跡と自然を護る会の有志により、埋まった土砂の除去と調査が行なわれ、復活しました。昭和9年の十銭硬貨、レンガ、陶器、桶などが出土しています。

八井（谷井・やい） 下玉里

下玉里の素鵞神社付近にあり、今も水が絶えず湧いています。

帯阿井（帯合井・帯谷井　おびあい） 下玉里

高井谷津から平内台に抜ける市道のほとりにあります。

高井（たかい） 下玉里

かつての市海道沿いの丘陵のふもとにあり、井戸やその周辺は泉上（せんがみ）と呼ばれてもいます。

平成11年度、玉里の史跡と自然を護る会の有志により、整備されました。

渋井稲荷（写真左手の森）とその周辺

渋井（しぶい） 下玉里

現在の渋井稲荷付近に所在していました。古文書の中には、帯阿井ではなく、この渋井を玉里六井に挙げているものもあります（表紙、玉里古跡録写真参照）。この渋井（稲荷）は、江戸時代、玉里御留川の境界の目印となっていた場所です。

六畑

ここに記載してあるほかに、大宮久保、天神久保、平内、下滝の畑をあげる古文書や伝承もあります。また玉里六畑は、他の六井、八館、八艘と違い、明治年間以降の文書に記載がみられるものです。

大日久保（だいにちくぼ） 上玉里

外山の南東に面するゆるい傾斜地で約1haほどの広さを有します。付近には稲荷（とうか）台、新福寺、宮後、寺前などといった宗教に関係する地名が多く残っています。

地蔵久保（じぞうくぼ） 上玉里

大日久保の近くの南に面する傾斜地に所在します。広さは約1ha。

芦久保・後久保（よしくぼ・うしろくぼ） 下玉里

女池南側の傾斜地に所在します。芦久保と後久保を合わせて約80a。

中里西の内久保（なかざとにしのうちくぼ） 下玉里

中里の南西に接する約50aの畑で、南東にゆるい傾斜を持ちます。

岡の内久保（おかのうちくぼ） 高崎

下玉里の市海道から市生涯学習センターに向かう地点の右手にある約70aの畑です。

無梶久保（むかじくぼ　通称むかで久保） 下玉里

大井戸平の台地から東南に傾斜する約60aほどの畑です。

八館

ここにあげたもののほか、玉里には小松館、葛城館、笠松館、殿塚館などの城館がありました。

富士峰館（ふじみねたて） 高崎

築城時期は不明。天正18年（1590）、佐竹義宣が常陸大掾清幹を攻めるにあたって、高野浜城（高浜）を攻略するために富士峰館に陣を置き、自ら大軍を率いてこれを破ったといわれています。

館山館（高崎城）の堀跡

館山館（たてやまたて　高崎城、波塚館、岡の内館とも呼ばれます） 高崎・下玉里

市生涯学習センターと、東側の権現平とを合わせた広大な敷地内に築かれた居館です。南北朝期の応安元年（1368）ころ、常陸大掾高幹の一族、靄町三河守平照光によって築城されました。平成4年、8年に発掘調査が行なわれ、土塁、堀、柵、郭、井戸などの諸施設が確認されました。

愛宕館（あたごたて） 下玉里

愛宕塚古墳を中心に、館があったと伝えられています。南北朝期の延元元年（1336）、北朝方の佐竹義春軍と南朝方の春日顕国・楠正家（瓜連城主）が交戦した「大枝（大井戸）の戦い」の主戦場となり、愛宕神社も兵火に焼かれたといわれています。

城の内館（じょうのうちたて） 川中子

自然堤防上の県道沿いにあり、土塁と堀が方形に巡る居館です。

現存している土塁の一部

要害館（ようがいたて　龍崖） 下玉里

女池北東の台地先端部に立地しています。土塁や堀が現存しています。常陸大掾氏の城館の一つで、館主は久保田平内と伝えられます。

取手山館（とりでやまたて　田木谷堡障） 田木谷

玉里台地の最東端に位置し、天文6年（1537）、府中城主大掾貞国が築城。天正16年（1588）には、大掾氏と江戸・佐竹氏との間で「取手山の戦い」の合戦が起こり、水戸市和光院過去帳によると、戦死者200人を越す激戦の末、落城したとされています。

平成24年度の発掘調査では、2ヶ所の郭、それを取り囲むように掘られた6条の堀、虎口などが確認されました。最前線の城館跡ならではの近代戦の塹壕のような通路跡も見つかっています。

飯塚館の土塁と堀

飯塚館（いいつかたて） 上玉里

2重の土塁と3重の堀が方形に巡る居館です。内部にはさらに郭を区画する堀、土塁があります。常陸大掾、平国香の子孫である兼忠の係累である飯塚氏が館主でした。築城は平安末期と見られています。

原山館（はらやまたて） 上玉里

円妙寺街道沿いにあり、今でも土塁や堀が現存しています。常陸大掾氏の家臣、原美濃守の居館と伝えられています。

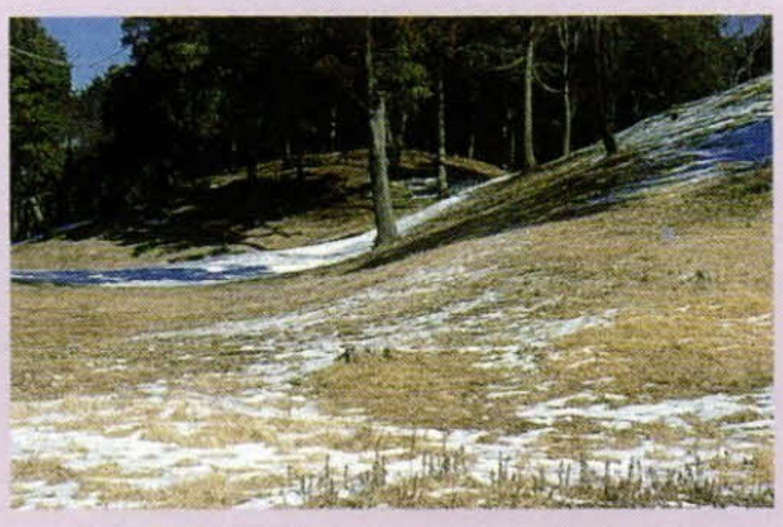
八艘

舟塚古墳（ふなつかこふん） 上玉里

6世紀中葉に位置づけられる墳丘長72.0mの前方後円墳です。昭和40年代、1～5次にわたる発掘調査が行なわれました。埋葬施設は特殊な二重石棺で、6条突帯を持つ大型の円筒埴輪、家形、馬形、武人などの形象埴輪などが出土しています。埴輪は、茨城県指定文化財（考古資料）になっています。

埋葬施設の特殊性や、大型の円筒埴輪の存在から、中央の大和政権とつながりの深い地方の首長墓と想定されています。

舟塚古墳の二重石棺



権現山古墳（ごんげんやまこふん） 下玉里

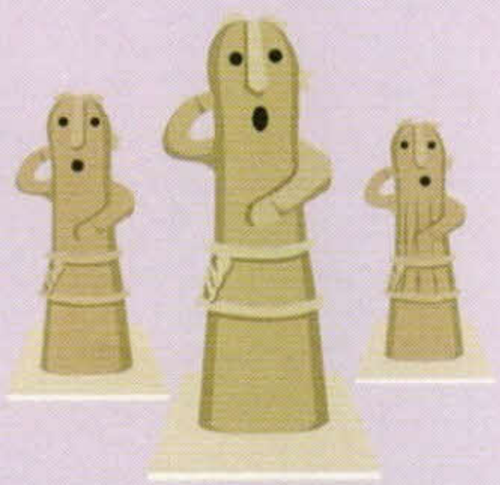
5世紀末～6世紀初頭に築造された墳丘長89.5mを誇る市内最大規模の前方後円墳です。平成8年度に実施された発掘調査では、前方部から大刀と鉄鏃が出土しており、埋葬施設として木棺があったと推定されています。造り出し部からは、円筒埴輪、人物埴輪、短甲形埴輪、馬形埴輪などの埴輪のほか、土師器（壺･甕･坏）や須恵器（筒形器台･直口壺）が出土しています。

閑居台古墳（かんきょだいこふん） 高崎

下高崎、西宮神社裏の台地上に立地します。墳丘長は60m。出土した円筒埴輪から6世紀後葉という年代が与えられています。

滝台古墳（たきだいこふん　三枚塚） 下玉里

霞ヶ浦に面した台地上に立地します。墳丘長83.4m。舟塚古墳のものと同じ大型の円筒埴輪や馬形埴輪が出土しています。時期は6世紀中葉。



桃山古墳（ももやまこふん） 下玉里

霞ヶ浦に面した台地上に立地します。墳丘長54.5mで、円筒埴輪、馬形埴輪が出土しています。墳頂に「桃山御陵遥拝所」と書かれた石碑があり、古墳名の由来となっています。

山田峰古墳（やまだみねこふん） 下玉里

玉里半島突端の台地上に立地します。墳丘長83.6m。多条突帯の円筒埴輪や馬形埴輪が出土しており、6世紀中葉という年代が与えられています。

大井戸古墳（おおいどこふん　伝馬塚、小舟塚） 下玉里

大井戸～川中子間の県道沿い、標高2mの自然堤防上に築造された前方後円墳です。現在は、墳丘の一部が現存しているにとどまり、築堤工事の際、「太刀、鎧、埴輪、玉類」が出土したと伝えられています。

富士峰古墳出土の直刀

富士峰古墳（ふじみねこふん） 高崎

霞ヶ浦に面する台地に所在する墳丘長68mの前方後円墳ですが、築堤工事のために墳丘は削平されてしまいました。後円部にあった3基の石棺からは、直刀、銅釧、金環、勾玉、ガラス小玉などが出土しています。墳丘北側に残存していた周溝において、埴輪が出土していないことから、埴輪樹立が終焉した後に築造された最後の前方後円墳であると思われます。築造年代は6世紀末頃。